

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名 (松阪工業高等学校全日制)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>○社会人として必要とされる人材となるために、挨拶をはじめとする基本的な生活習慣を身につけ、人権感覚豊かな人間性を磨く学校</p> <p>○専門学科における知識、技術の習得に意欲や向上心を持ち、技術者として通用する専門性を養うとともに、地域からの信頼に応える学校</p> <p>○文武両道に成果を示すことのできる生き生きとした学校</p>
(2)	育みたい生徒像	<p>○人権感覚豊かで、挨拶をはじめとする基本的な生活習慣と高いコミュニケーション能力を身につけて、希望する進路実現を叶えることができるようになっている。</p> <p>○仲間作りを重視し、LHR活動やクラブ活動を活発化し、生徒自身が主体的、積極的に取り組むようになっている。</p>
	ありたい教職員像	<p>○目指す学校像実現に向け、生徒の個性を伸ばしながら人間性を高めることを常に意識して、生徒の成長を自らの喜びとする教職員集団である。</p> <p>○生徒の進路実現のため、基礎学力向上と専門知識・技術の習得に向けてたゆまぬ授業改善を図り努力する教職員集団である。</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈生徒〉○希望進路（就職・進学）の実現 ○分かりやすい授業と基礎学力の向上 ○学校行事の充実 ○部活動の充実</p> <p>〈保護者〉○基礎学力の向上 ○希望している進路実現への支援 ○施設・設備等の教育環境の整備</p> <p>〈地域（含む小中学校、企業、進学先）〉○社会人として身につけるべき礼儀正しさや基本的な生活習慣、技術者としてふさわしい知識と高いコミュニケーション能力を備えた生徒の育成</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者〉○希望進路の保障に向けた様々な取組 ○施設や設備の開放 ○校内行事への参加機会の増加</p> <p>〈同工会（同窓会）〉○本校の歴史・伝統をしっかりと理解し本校生徒としての自覚と誇りを持った社会に有為な人材の育成</p> <p>〈地域（含む小中学校、企業、進学先）〉○地域への奉仕・連携 ○雇用環境の変化に順応した高いコミュニケーション能力を持つ人材の輩出</p>	<p>〈保護者〉○学校経営への参画機会の増加 ○学校教育活動への支援協力</p> <p>〈同工会（同窓会）〉○生徒に対する支援機会の増加 ○同工会員による講演会の実施</p> <p>〈地域（含む小中学校、企業、進学先）〉○インターンシップなど進路面での協力及び連携 ○学校経営への参画機会の増加</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○就職については、求人の多さに甘んずることなく、企業の求める人材がどのようなものかというニーズを把握し、何が必要かを考えて教育する必要がある。</p>	

		○生徒の自主性、自発性、自律性を育むためには、地域のイベントにおける参加や交流等、外部との連携を推進することも有効である。
(4) 現状と課題	教育活動	○創立116年の歴史と伝統を生かし、生徒に誇りと自覚を持たせ、自律的な教育活動を展開している。大多数の生徒は挨拶や礼儀など含め、基本的な生活習慣を身につけつつある。 ○専門高校としての生徒育成に職員が前向きに取り組み、各種の資格取得や検定への取組が確立されており成果につながっているが、企業等が望むようなコミュニケーション能力の高い人材の育成にまでは至っていない。
	学校運営等	○学校の取組が地域等に定期的に発信され、地域からの必要性や関心の度合いが高まりつつある。また、ホームページや学校新聞「せきへきたましい」は、地域の中学生をはじめ近隣住民に対し、本校の教育内容をアピールする役割を果たしているが、志願者数は年々減少する傾向にある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	○礼儀や挨拶などの指導が定着してきているが、さらに生徒自らが自発的・自主的に行動できる力をつけさせる。また、生徒の内面的な問題も含む心のケアがますます重要となっており、その対応を充実させる。 ○基礎学力向上の取組や資格取得の取組をさらに推進し、生徒の自己肯定感や自尊感情を高めていくとともに、コミュニケーション能力の向上、職業選択能力や勤労観・職業観の育成を図る。 ○人権教育の推進について、生徒の活動を積極的にするため、「人権教育ガイドライン」をふまえ、人権LHRや学校行事等を活用しながら生徒自身の意識の高揚を目指す。 ○命を大切にする教育、主権者教育の充実を図る
学校運営等	○生徒が主体的・対話的に深い学びができるような授業の実現に向け、授業改善に取り組んでいく。 ○本校の教育活動を地域の中学生をはじめ近隣住民に対して情報発信し、地域の中学生にとって魅力ある学校として認められるための取組の一層の充実を図る。 ○総務事務の集中化、教職員育成支援システム、学校関係者評価等、新たな制度の導入が進む中で、会議の効率化や仕事の平準化などにより、総勤務時間の縮減を図る。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教科指導	(1) 基礎力診断テストを実施することで生徒の学力実態を把握して基礎学力の向上と定着に努める 【活動指標】1学年4回、2学年3回、3学年2回の基礎力診断テストを実施することで基礎学力を把握し、対策する。 【成果指標】診断結果がDゾーンの生徒数がゼロになる。 (2) 資格取得・検定試験の取組を推進することで全ての生徒のスキルアップに努める。	(1) 3年生については、Dゾーンの生徒が65→61と微減した。1・2年生については、9月実施分を記述式の実力診断テストにしたためにDゾーンの生徒が2年：76→88、1年：49→56と増加したが、予想よりは健闘した。 (2) 第三種電気主任技術者試験（電験三種）に電気工学科生	※◎

	<p>【活動指標】 合格率を高めるための補習等の取組が生徒の実態に応じて効果的に実施されている。</p> <p>【成果指標】 ジュニアマイスター顕彰優良校となる。</p>	<p>徒5名が合格したほか、ジュニアマイスター顕彰や職業教育顕彰をそれぞれ50名程が受けたなど、大きな成果を上げることができた。</p>	
進路指導	<p>(1) 各企業との情報交換に努め、求める人材を的確に把握し、生徒一人ひとりの進路保障に努める。また、多様化する入試制度に対応し、個々の生徒の将来を見据え、希望に応じた進学指導を行う。</p> <p>【活動指標】 早い時期からの企業訪問を実施し、企業の採用担当者と情報交換を積極的にを行い、企業から求められる人材の育成に努める。資料室の充実と有効利用をさらに進めるとともに、生徒一人ひとりのニーズを把握し対応していく進路指導に努める。進学、就職に対応できる基礎学力向上の取組を継続的に行う。</p> <p>【成果指標】 希望進路の実現を100%にする。</p>	<p>成果としては、学校をあげての企業訪問による情報収集により、生徒の進路決定の意識を高めることができた。また、全職員による面接指導やSPI対策講座の実施等により、一次試験での合格率が94.9%に達した。さらに、進学では個別面談や担任との連携を密にした指導により、国立大学の合格実績に繋げることができた。</p> <p>課題としては、依然として基礎学力に課題が残る生徒に対し、いかに力をつけるかということである。また、相手の意見を的確に理解し、意見を簡潔に伝えるといったコミュニケーション力に課題のある生徒に対し、いかに力をつけていくかということである。</p>	
生徒指導	<p>(1) 社会人として身につけるべき礼儀正しさや基本的な生活習慣の涵養に努める。</p> <p>【活動指標】 職員による毎日の登校指導を継続し、しつけ指導を徹底する。宿泊研修、学校行事等の機会を活用し、生徒の人格形成に資する講話・講演を行う。(10回程度)</p> <p>【成果指標】 通学時を含め、服装頭髪のみだれがなく、生徒全体が自発的に挨拶できる。</p> <p>(2) 問題行動を未然に防ぎ、生徒の健全な発達・育成を支援する。</p> <p>【活動指標】 問題行動を未然に防ぐために掲示物や講話による啓発活動を行うとともに、通学路、駅周辺、免許センターを含めた校外各施設への巡回を積極的に実施する。</p> <p>【成果指標】 問題行動の件数を減少させる。</p> <p>(3) 自転車盗難被害防止活動を実施し、防犯意識の高揚に努める。</p> <p>【活動指標】 所有自転車のツーロックの完全実施を目指して、全校集会、啓発パネルを通して生徒に呼びかけ、意識を高める。</p> <p>【成果指標】 校内外における自転車盗難をゼロにする。</p>	<p>(1) 全校集会・学年集会・登校指導等で進路実現・進路保障できる学校づくりという観点から、挨拶指導・遅刻指導・身だしなみ指導をして、一定の成果が出てきている。ただし、遅刻については、年間1千件を越えているため、来年度は5百～6百件にしたい。</p> <p>(2) 問題行動については、生活の基本3要素(「挨拶ができる」「遅刻がない」「掃除ができる」)の指導と事前指導に重点を置いたことで、指導件数が昨年度の半分の、一昨年度の5分の1の件数となった。</p> <p>(3) 日々の自転車盗難被害防止活動(施錠忘れは生徒指導課でロック)により、今年度も校内の自転車盗難は0件であった。また、学校が把握した校外での件数は2件であった。</p>	◎

<p>保健 (教育相談)</p>	<p>(1) 自分の健康は自分で管理(セルフ・ケア)できる力を養う。 【活動指標】 掲示物・保健だよりでの啓発活動や健康相談を行うことで、自分の健康は自分で守り、将来にわたって健康の保持増進ができる自己管理能力を身につけ、生きる力を育てる。(通年) 各種健康診断や、各行事に関わる保健指導を通し、生徒の基本的な生活習慣の確立を推進する。 スクールカウンセリング(月2回)、生徒向けの教育相談講演会(年1回)、教育相談に関する現職教育(年1回)を実施する。また、工業各科、生徒指導課等と連携して、生徒一人ひとりに対し、心身両面の支援ができるように努める。 【成果指標】 生徒が体と心に対し自己管理する力を高めていくよう支援する。(保健室の来室者の減少)</p>	<p>性教育講演会(各学年)、献血セミナー(3学年)を行った。それぞれの講演は、生き方を考えるよい機会となった。 スクールカウンセラーによる教育相談は、24回行った。</p>	<p>※</p>
<p>人権教育</p>	<p>(1) すべての職員及び生徒の人権意識を高める。 【活動指標】 すべての教員が、開催される研修会等の目的を理解した上で、自発的に参加する。 ホームルームや解放研における生徒の活動を支援することで、一人ひとりが認められる仲間づくりができる環境を整える。 人権LHRを積極的に公開し、内容の改善を図る。 【成果指標】 学期毎に人権研修会を実施し、全職員が自発的に取り組む。 公開の人権LHRを各学期に1回実施する。 「命を大切にす」人権講演会を実施する。</p>	<p>ほぼ全員の教職員が校外研修に自発的に参加し、人権感覚を磨いた。また、年2回の人権研修会を実施し、グループワークでは非常に活発な討議がなされた。 公開人権LHRを各学期に行った。また、出口勤さんを講師に「いのち」の人権講演会を実施した。</p>	

改善課題

新学習指導要領もふまえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を早急に進めていく必要がある。その中で、特に「基礎力診断テスト」を活用した基礎学力向上・定着の取組や、生徒の自己肯定感・自尊感情を高める有効な手立てともなる資格取得の取組をさらに強化していきたい。

生徒指導にかかわっては、問題行動の件数は減少しているものの、SNS上でのトラブルが散見されることから、特にネットモラルについての指導を強化するとともに、教育相談や人権教育の取組等との連携も図っていきたい。一方で、心のケアを必要とする生徒も増加しつつあることから、カウンセラーの活用や、生徒指導の取組との連携を図りながら、教育相談や人権教育の取組等の中で個々の生徒の状況に応じた適切な支援を充実させていきたい。

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
総務・広報	<p>(1) 市内小中学校・地域・マスコミに向けた広報活動を積極的に行い、開かれた学校として地域における存在価値を高める。</p> <p>【活動指標】 学校案内の改訂、学校新聞「せきへきたましい」を充実・工夫する。またホームページの充実を図る。</p> <p>中学校の教員・保護者向け授業公開を実施する。</p> <p>報道機関への情報提供を積極的に行う。</p> <p>【成果指標】 アンケートの実施により満足度80%以上。</p>	<p>広報活動はほぼ予定通り実施でき、授業公開においても参加者が増加するとともに、高い満足度が得られている。</p> <p>しかし、志願者数を増やすためのさらなる工夫が求められている。</p>	
授業改善	<p>(1) 効果的な授業づくりのために、保護者向け公開授業や校内での研究授業を実施する。</p> <p>【活動指標】 保護者の授業参観を実施する。また、教員間の校内授業公開日を設定する。</p> <p>【成果指標】 保護者の授業参観者数の増加。全教員が少なくとも一回の授業参観を実施する。</p>	<p>(1) 保護者向けの公開授業は、2回実施できた。教員間の校内授業公開日を設定したが、教員の参加は少数であった。また、他校の教職員にも公開したが、参加者は無かった。</p> <p>なお、公開に係るアンケートには、授業改善をふまえた質問項目を新たに設けた。ちなみに、いただいた回答は、概ね好評価であった。</p>	
地域連携	<p>(1) 市内小中学校との連携を密にし、工業高校の教育内容を発信する。</p> <p>【活動指標】 近隣小中学校の本校見学と体験実習を企画、実施する。(3回以上)</p> <p>高校生活入門講座の内容を充実させる。</p> <p>【成果指標】 アンケートの実施により満足度80%以上。</p>	<p>天候や日程の関係から、市内小学校による見学は1校に留まった。</p> <p>高校生活入門講座に係るアンケートでは、99%の参加者から好評価を得ることができた。</p>	
業務改善	<p>(1) 過重労働を減らし、生徒と共に教育活動に専念出来る職場環境の整備に努める。</p> <p>【活動指標】 会議の精選や校務内容の見直しで業務の効率化を図る。</p> <p>①定時退校日の設定(月1日)</p> <p>②部活動休養日の設定(土日のいずれか1日)</p> <p>③会議時間の短縮(1時間以内100%/H29年度95.8%)</p> <p>④時間外労働時間の短縮(月平均1時間/H29年度15.6時間)</p> <p>⑤休暇取得日の増加(1人年1日)</p> <p>⑥月の時間外労働が80時間を超える人数の削減(15人/H29年度のべ23人)</p> <p>【成果指標】 総勤務時間の縮減。</p>	<p>定時退校日については、職員会議開催日に設定することで、回数の増加を図ることができたとともに、総勤務時間の縮減についての意識の高揚にも繋がった。</p> <p>しかし、部活動休養日の設定や時間外労働時間の短縮については、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)が三重県で開催されたこともあり、十分な成果を上げることができなかった。</p>	
改善課題			

一定の志願者数の確保を目指し、広報活動の充実化や高校生活入門講座の魅力化、地域連携の深化等を進めていきたい。また、そのためにも、前述したとおり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を早急に進めていく必要がある。

総勤務時間の縮減については、意識の高揚は見られたものの、時間の十分な縮減には及ばなかった。仕事の平準化等も進めながら、一層の働き方改革に努めていきたい。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	進路状況の良好さに甘んずることなく、資格取得に一層取り組むとともに、英語力やプレゼンテーション能力等の育成にも尽力してもらいたい。 負担をかけることになるが、校外清掃等の地域活動に今後も継続して取り組んでもらいたい。 教職員の年齢構成を十分に生かし、若手教職員の資質向上や個々の教育活動の活性化を図ってもらいたい。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	特に部活動、基礎学力向上・定着や資格取得の取組をとおして、生徒の自己肯定感・自尊感情を高めるとともに、キャリア教育の充実や主体的・対話的で深い学びの実現を図る。また、そのためにも、地域との連携を深め、異年齢交流等に取り組む。
学校運営についての改善策	魅力ある教育活動の実践、広報活動の充実や地域連携の深化等をとおして、一定の志願者数の確保を目指す。また、そのためにも、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を早急に進める。 仕事の平準化等をとおして、一層の働き方改革に努め、総勤務時間の縮減を図る。